



全社員一丸となり進化します



1月6日、仕事始めの日に社長年頭挨拶の後、本社勤務全社員で記念撮影

「ゴキブリキャップ」の包装作業は新年に入ってフル生産です。検査をしっかりと行う[]さん



だんご生産は、昨年末より始めました。しっかりと検査をする[]さん(左)と[]さん(右)



ネズミ退治には
コロソブロック

鍵山秀三郎さんに学ぶ

掃除を始める極意

道具をキチンと揃え、誰からも見える場所に置きます。そうすると、掃除をする社風が定着します。

『一日一話』鍵山秀三郎著より



ゴキブリ追放宣言

上田三三先生の

「歴史と人物に学ぶ」

再録―⑧

分度と推譲

二宮 尊徳（金次郎）



二宮金次郎の銅像は、戦前全国すべての小学校の校庭にあり、二年生で「二宮金次郎」という唱歌も習ったので、みんながおなじみの人物でした。幼いとき洪水で田畑が流失、苦勞のために父も母も亡くなります。

金次郎はよその家にやとわれ、朝は四時から起きて働き、夜はおそくまで読書や習字に励みました。薪を背負って、本を読みながら歩いているあの銅像の姿は、そのころの金次郎少年をあらわしたものです。十五年の努力を積み重ねて、かれはみごとに二宮家を再建しました。

金次郎がその苦闘のなかで、経験から学んだのは「分度と推譲」という考え方でした。分に従って度を立てる―自分の将来や子孫のために、多少でも余力を生ずるよう、生活の限度を立てるということ。例えば三十万円の収入であれば、十五万円や二十万円くらいで生活するのが、自分の「分」と考え、残りを将来のため積み立てていくわけです。

「推譲」とは、人に譲る、人の身をわが身と思う、他へのいたわり、思いやりです。

この考えをすすめた金次郎は、やがて小田原藩の家老から頼まれ、その家の経済を立て直し、さらには殿様の依頼で、荒れ果てていた桜町領の財政を再建します。農民の出身でありながら、ついには幕府の仕事までまかせられ、道徳を基本においた経済政策の実践家として、今日にいたるまで日本全国に大きな影響を及ぼしています。

※二宮 尊徳（にのみや そんとく・安政三年（一八五六年）七十歳没）



北海道師友会前副理事長

上田三三生（うへだ・ささお）先生

平成二十一年十月没・八十一歳

「感謝のハガキ道」コンテスト

タニサケの営業マンはお客様のところに訪問した後、お会いした方に「感謝のハガキ」を書いてお届けしています。

各々の営業マンが、お客様に書いた自慢のハガキを無記名で持ち寄り、全社員が優秀なハガキに投票しました。

昨年の十二月二十日の午後一番に営業マンを含めた全社員が発送場に集合し、その場で投票結果の発表がありました。最優秀賞は、 さんが受賞しました。 さんには

 より記念品が贈られました。また、受賞を逃した他の営業マンには、努力賞の記念品が贈られました。

 さんのハガキの一部です。

いつもお世話になっております。先日はレジ横に設置したモニターの回収にお伺いしたところ、『子供たちが画面をじっと見ている姿が、レジからよく見えますよ』と教えていただき、ほっこりした気持ちになりました。とても取り外せません。今度、子供たちが見ていたら『ゴキブリキャップのおじさんが外しに来たけど外さないと頼んであげたよ』と話してください。子供たちの喜ぶ姿と〇〇様の優しさが浮かndきます。



（右）より記念品を受け取る さん（左）